

## 検査結果の報告の仕方

3つの結果（「**Negative**」、「**Positive**」、「**Uncertain**」）に大別）で報告されます。結果に関わらず、主治医や遺伝の専門家（臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー）と話し合い、適切なフォローアップを受けるようにしてください。

### それぞれの結果について

#### Negative

がん発症リスクを高める遺伝子の変化を持っている可能性が完全に消えた訳ではありませんが、その可能性はかなり少なくなったと言えます。これはあなたががんに罹らないことを意味する訳ではありません。一般的ながんのリスクは残るため<sup>2</sup>、一般的ながん検診が必要です。すでにあなたががんを発症している場合、遺伝子の変化による影響は明らかではありません。再発を防ぐため、今後の健康管理について主治医や遺伝の専門家と話し合うことをお勧めします。

#### Positive

がん発症リスクを高める遺伝子の変化を持っていて、一般の方よりもある種のがんになるリスクが高いと考えられます。すでにあなたががんを発症している場合、その遺伝子の変化による影響が考えられます。あなたががんを発症していない場合、遺伝子に変化があるからといって、必ずがんを発症するというものではありません。今後の健康管理について主治医や遺伝の専門家と話し合ってください。また、大切なこととして、あなたはその遺伝子の変化をご両親のいずれかから受け継いでいて、ご兄弟姉妹、ご親戚も同じ遺伝子の変化をもっている可能性があります。また、ご自身のお子さんにもその遺伝子の変化を受け継ぐ可能性があります。ご家族の検査の必要性について、ご家族や主治医・遺伝の専門家と話し合うことをお勧めします。

#### Uncertain

遺伝子に変化が検出されましたが、現時点ではがんの発症に関わる可能性が明確ではない変化であったことを意味します。今後の健康管理について医師や遺伝の専門家とよく話し合うことをお勧めします。

## 検査後の健康管理

がん発症リスクを高める遺伝子の変化があるとわかった場合、がん種別に発症の予防や早期発見、治療法の検討といった健康管理が必要です。<sup>2,3</sup> 次の項目について、医師や認定遺伝カウンセラーと相談してください。

- より精密ながん検診の頻度を増やすこと
- 一般よりも早い時期からのがん定期検診の開始
- 予防のためのリスク低減手術の必要性
- 化学予防の選択
- 血縁者のリスクについての検討



### 参考文献

1. 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス [http://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/stat/summary.html](http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html)
2. Family Cancer Syndrome. American Cancer Society. Available at <https://www.cancer.org/cancer/cancer-causes/genetics/genes-and-cancer.html>. Accessed May 6, 2015.
3. Petrucelli, N et al. BRCA1 and BRCA2 Hereditary Breast and Ovarian Cancer. Gene Reviews. Available at: <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK1247>. Accessed October 22, 2013.

検査の前後には、必ず医師に相談し、  
遺伝カウンセリングを受けてください。

医療機関名

ラボコープ・ジャパン合同会社

Jul. 2017 LCJ-Vista-001A ©2017 Laboratory Corporation of America® Holdings. All rights reserved.

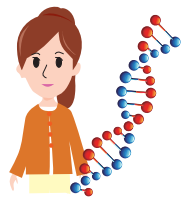
# VistaSeq®

がん発症リスクを高める遺伝子の変化について、  
少量の血液を採取して調べるがん遺伝子パネル検査です。

VistaSeqを受ける前には、  
必ず、医師にご相談の上、  
遺伝カウンセリングを受けてください。

## がんと遺伝性腫瘍

現在、日本人の2人に1人が生涯に何らかのがんに罹患します。<sup>\*1</sup> 実際にご家族ご親戚の中にがんにかかった方がいる、という人は珍しくないと思います。それも1人ではなく複数人いて、自分がかん家系かもしれないと心配されている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。それは家族で共有している環境、例えば食生活や喫煙習慣などが理由かもしれません。しかし、なかにはがんの発症リスクを高める遺伝子の変化を祖先から受け継いでいる場合もあります。<sup>\*2</sup> そのような祖先から受け継いだ生まれつきの遺伝子の変化が原因で引き起こされるがんを総称して遺伝性腫瘍と呼びます。すべてのがんの5-10%はこの遺伝性腫瘍だといわれています。<sup>\*2</sup>



## 遺伝性腫瘍の特徴

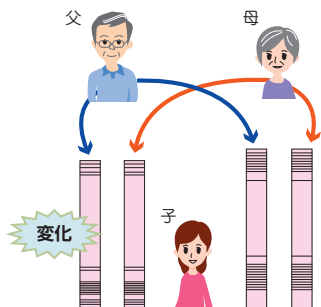
遺伝性腫瘍は多くの場合、以下のような特徴を持っています。<sup>\*2</sup> ご自身が遺伝性腫瘍の原因となる遺伝子の変化を持っているかもしれないとご心配の場合、まずは専門の医師や認定遺伝カウンセラーとご家族の病歴について相談しましょう。検査の必要性を含め、医療的なアドバイスが得られます。

- ご自身含め血縁者に低頻度、あるいは希少がんを発症された方が複数いる。
- ご自身含め血縁者に通常よりも若年（40歳未満）でがんを発症された方がいる。
- ご自身含め血縁者に原発性（転移や再発ではない）のがんを一人で2個以上発症された方がいる。
- ご自身含め血縁者に2つある臓器の両方のがんを発症された方がいる。（例えば、乳房や腎臓など）
- ご自身含め血縁者の兄弟姉妹で2つ以上小児がんを発症している。
- ご自身含め血縁者に性別によって罹りにくいはずのがんを発症された方がいる。（例えば、男性乳がんなど）

## 遺伝子とがんの遺伝について

遺伝子は身体を作り維持するための設計図であり、この設計図をもとに身体が作られ、機能が保たれています。私たちは皆、何かしらの遺伝子の変化を母親と父親それぞれから生まれつき受け継いでいます。遺伝子の変化には個人差として影響するものもあれば、病気に繋がるものもあります。そして、がん発症リスクを高める遺伝子の変化もいくつかわかってきています。

これは、遺伝子の変化を持っているひと全員ががんを発症するという意味ではありません。あくまでも、がんを発症する可能性が一般頻度よりも高くなるというだけで、がんそのものが遺伝することはありません。



## 検査について

### 検査の目的

遺伝性腫瘍が疑われる場合、複数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」が効率的かつ経済的な可能性があります。VistaSeqは、がんの発症と高い関連が知られている27遺伝子を対象にしたがん遺伝子パネル検査です。それら遺伝子に変化があるかないかを知ることで、主治医や遺伝の専門家（臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー）があなたやあなたの家族にとって必要な検診や検査を考慮したり、がんになるリスクを減らすための治療法や予防策を考えることができます。

### 検査の方法

本検査は採血のみで行われます。採取した血液からDNAを抽出し、がんの発症と高い関連が知られている27遺伝子を調べます。

### 所要日数

約4週間